

# 二中の木

学校報  
第13号  
H27/11/18



能代市立  
能代第二中学校  
TEL52-5138

## 「平成二十七年学校評価・前期分（十月集計）」 先生方へのアンケート結果まとめりました。

今号では、10月1日に実施した平成27年度「学校評価アンケート」教師分の集計結果についてお知らせします。

- ⑤: そう思う
  - ④: どちらかというと思う
  - ③: どちらとも言えない
  - ②: どちらかというと思わない
  - ①: そう思わない
- ～5段階の評定～

### 教師アンケート結果

⑤④を肯定的回答、②①を否定的回答として整理することになりました。なお、(～)内数字は前年度後期分のもので、比較のために載せました。また、アンケート項目は趣旨を損わない程度に簡略化したものもあります。

生徒アンケートと同様に、評定はあえて強制選択的な4段階とはせず、自分の気持ちに近い段階を選べるように5段階としました。そして、取組の成果と課題を明確にするために中間の③を除いて①を否定的回答、②①を肯定的回答として整理することになりました。

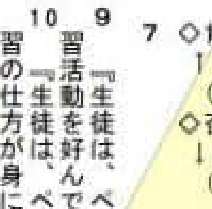


1 『生徒は、休み時間のうちに教科書など次の授業の準備をしている。』  
2 『生徒のチャイム着席は、定着している。』



3 『学習用具の忘れ物が見受けられない。』  
4 『指名されたら返事をする事が定着している。』

12 『どの学校も学校全体の授業態度に真剣さを感じられる。』  
11 『家庭学習は習慣化され、学力向上につながっている。』



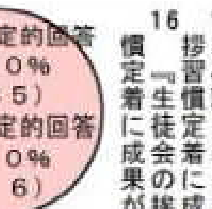
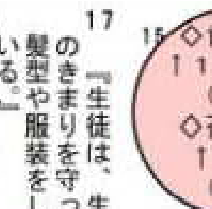
8 『進んで発言したり、発表したりする生徒が多い。』  
7 『授業中、発言対しての冷やかしさからかいない。』



6 『指示や説明、発言をしつかり聞く態度は定着している。』  
5 『場に応じた声量で明瞭に語尾まで発言することが定着している。』



18 『生徒情報は職員が共有し、学年を問わず現場指導がされている。』  
17 『生徒は、生活のきまりを守った髪型や服装をしている。』

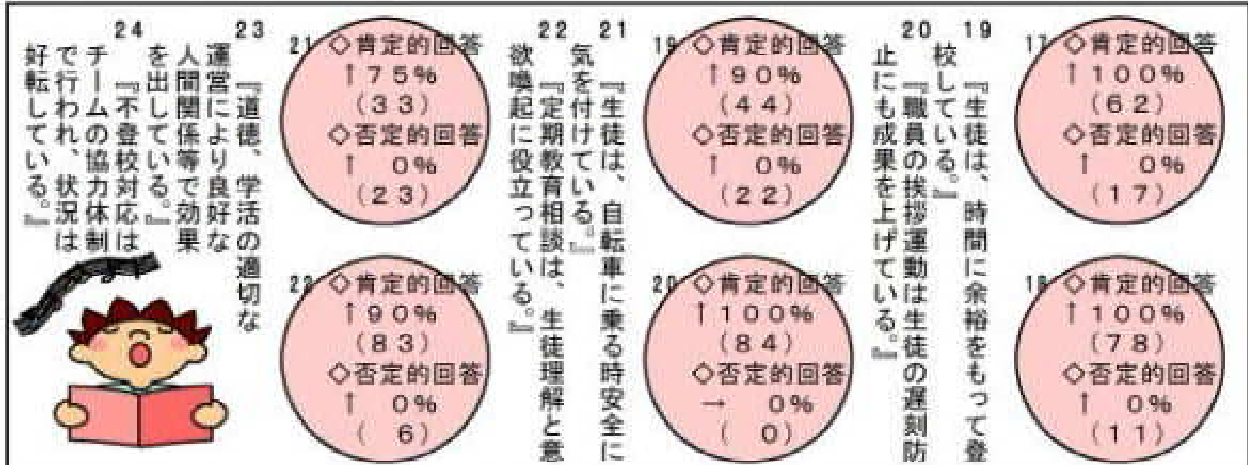


14 『時と場に応じた生徒の挨拶はよくなされている。』  
13 『各データから基礎・基本の内容の定着と学力向上傾向が見える。』



12 『どの学校も学校全体の授業態度に真剣さを感じられる。』  
11 『家庭学習は習慣化され、学力向上につながっている。』





**成果と考えられること**

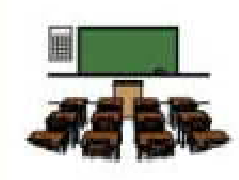
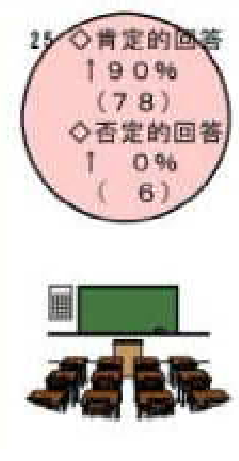
「不登校対応はチームの協力体制で行われ、状況は好転している。」

「生徒は、自転車で乗る時安全に気を付けている。」

「定期教育相談は、生徒理解と意欲喚起に役立っている。」

**結果を読み解くにあたって**

生徒アンケートと同様、肯定的回答数値の増加、否定的回答数値の減少については、改善傾向もしくは良好な状態として↑を付加してあります。逆の状態については↓、数値的に変わらない場合には→を付けてあります。全体的な傾向を掴んで頂ければと思います。1ポイント前後の数値の違いには見ていただく上で配慮が必要です。肯定的、否定的回答の両方が↑の場合には、背景に○を置くなどして示します。(否定回答が0%で変化しない場合→も含んで)



肯定回答の平均は、77%で前回調査比19Pのアップ。一方、否定回答の平均は、3%で12Pの改善。良好な状態にあると感じている先生方が多いようです。

分析の視点を明確にするために25項目を①「学習習慣」(1, 2, 3, 4, 5, 11), ②「学習姿勢」(6, 7, 8, 12), ③「学習形態・ペア、グループ」(9, 10), ④「学力向上」(13), ⑤「生活習慣」(14, 16, 17, 19, 21), ⑥「生徒指導・全般」(15, 18, 20), ⑦「生徒指導・不登校対応」(22), ⑧「生徒指導・特活運営」(23)に整理しました。

○(1)(5)(8)毎の平均では、肯定的回答、否定的回答の全てで改善の状況にあると先生方が判断していることが分かりました。特に①「学習習慣」、②「生活習慣」、③「学習姿勢」、④「学力向上」では20P以上の肯定回答アップです。

生徒のアンケート調査からも、「学習習慣」「生活習慣」「学習姿勢」の改善に自信を深めている生徒が増えていることが分かってきます。

先生方からもお墨付きをもらった形になりました。

○15, 17, 18, 20については、肯定的回答がいずれも100%となつたものです。これら4項目に加え、11項目で否定的回答が0%を示している



まず、教育活動全体を通して指導の効果が上がりつつあるのではないでしようか。特に学習・生活の基本的な部分や生徒指導面での支援に手応えを感じ始めている先生方の姿が見えてきます。

昨年調査よりは改善の傾向にあると判断できそうな項目であっても、肯定的回答が低い項目が気掛かりです。

3, 5, 8, 11がそれからです。自分の考えを明快に、進んで話す姿を生徒に求めている先生方が多くいるということ。自分の考えを明快に、しかも進んで発言したら、よりよく課題が解決できた、学習することがさらに楽しくなったなどといった体験を意図的に教師側が仕組まなければなりません。

□生徒アンケートとの比較から、ペア・グループ学習の形態を教師側が考えるレベルまで生徒は志向していないのかもしれない。その効果と必要感を実感させなければなりません。

**～集計を終えて～**

充実した学校生活のスタートを切りたい。前回の調査から、学習習慣の確立が重要だと感じています。心を取り戻すために、学習習慣の確立を目指して取り組んでいきます。

【終】

**課題と考えられること**

「生活習慣」(14, 16, 17, 19, 21), 「生徒指導・全般」(15, 18, 20), 「生徒指導・不登校対応」(22), 「生徒指導・特活運営」(23)に整理しました。

○(1)(5)(8)毎の平均では、肯定的回答、否定的回答の全てで改善の状況にあると先生方が判断していることが分かりました。特に①「学習習慣」、②「生活習慣」、③「学習姿勢」、④「学力向上」では20P以上の肯定回答アップです。

生徒のアンケート調査からも、「学習習慣」「生活習慣」「学習姿勢」の改善に自信を深めている生徒が増えていることが分かってきます。

先生方からもお墨付きをもらった形になりました。

